

# 沈黙の時代

400年の沈黙



## 第18課:沈黙の時代

400年の沈黙

聖書

この時期に本は書かれていませんでした。

概要

旧約聖書と新約聖書の間には約**400年の空白期間**があり、この間、聖書の新たな書物は記されなかったが、政治・文化・宗教において大きな変化が起こった。この時代、ペルシャ、ギリシャ、ローマといった帝国がユダヤ人を支配し、イエスの到来と新約聖書の舞台が整えられていった。

レジュメ

ギリシャによる征服

- アレクサンダー大王の征服（紀元前334年～323年）により、ギリシャからエジプト、さらにアジアの奥深くまで領土が拡大。
- この地域全体にヘレニズム（ギリシャ）文化と思想が広まり、ユダヤ人社会にも影響を与える。
- ギリシャ語が広く採用され、当時知られていた世界の多くの地域で、貿易・教育・行政の共通言語として使用されるようになる。

マカバイの反乱

- セレウコス朝のアンティオコス4世によるユダヤ人根絶の動きが起こる。
- これに対抗してマカバイの反乱が勃発し、神殿の再開所へとつながる（ハヌカで記念）。
- ユダヤ人の短期間の独立が実現し、宗教的アイデンティティへの取り組みが再燃。
- トーラー研究、神殿儀式、清浄法の再重視が進む。
- この反乱の直後、ファリサイ派の伝統が形成される（紀元前165～160年）。

ローマ法と統治

- 紀元前63年、ローマによるユダヤ征服が始まり、地域はローマ支配下に入る。
- ローマは秩序・組織・中央集権的な権威をもたらし、地域の安定化に貢献。
- 領土間の貿易・移動・通信が改善され、ユダヤ社会にも影響を与える。
- ヘロデ大王のような地方支配者が「属王」として設置され、ローマの政治的権力と地元の慣習が融合される。

ローマ街道とインフラ

- ローマの偉大な貢献の一つは、有名な「ローマ街道網」であり、広大な帝国の都市を結ぶために整備・拡張された。
- これらの道路は安全かつ効率的な移動を可能にし、キリスト教の普及に決定的な役割を果たすことになる。
- 使徒パウロは宣教の旅を完遂するために、ローマのインフラに大きく依存していたことが明らかである。

要点

- ペルシャ帝国は、旧約聖書の終わり頃から、追放されたユダヤ人が約束の地へ帰還するための道を開いた。
- ギリシャ帝国は世界に共通言語をもたらし、キリスト教の信仰が記録され、知られた世界の隅々まで広く伝えられることを可能にした。
- マカバイの反乱は、ユダヤ人の宗教的アイデンティティへの関心を高め、来るべきメシアへの憧れと期待を増大させた。
- ローマ帝国は、比較的安定した環境と道路網を提供し、キリスト教の普及を可能にした。